

南牧村花卉生産組合花情報(平成 28 年 5 月)

「なんもくの花」

群馬県南西部の山間の地「南牧村」では、平均年齢 74 歳の 16 名が 50 種類を超える宿根草や花木などの切り花を生産し、「なんもくの花」として首都圏へ出荷しています。

『山回り』

昨年、新たに出荷を始めた大手市場が「山回り」に訪れ、大半の組合員が同行。出荷のタイミングなど様々な指導を受けました。また、はじめて南牧村を訪れた市場担当者は、良く管理されている畑に驚いた様子でした。

【山回りの様子】→



『ペロニカの出荷始まる』

3 年ほど前に導入し、徐々に生産が増えてきた「ペロニカ」の出荷が始まりました。今年は気温が高めで、いつもより早めの出荷開始になりました。まず“ピンクダマスク”（タイトルの写真）、そして“ブルーリーゼン”や“パープルレイン”の出荷へと続きます。

【ペロニカ“ブルーリーゼン”】→



『スモークツリー、ヒメヒマワリの出荷間近』

「なんもくの花」の主力商品、「スモークツリー」「ヒメヒマワリ」の出荷が近づいてきました。今年も例年同様、多くの出荷を見込んでいます。ご期待ください。

【出荷間近のスモークツリー】→

